

平成29年度農業後継者特別支援事業

事業主体名 鹿児島県立農業大学校農学部果樹科

1 目的

アボカドは海外から 60,000 t, 158 億円（平成 25 年）が輸入され、食生活に定着しつつあるが、国産果実の生産量は極めて少ない。

本県では、アボカドが露地で越冬し、実際に果実が着果している栽培可能な地域があり、現在、指宿市や奄美市等で国産果実の生産を目指したアボカドの苗木植栽が開始されている。

本校においても、平成 27 年度から研究プロジェクトで、無加温栽培で5つの品種を導入し、品種別に開花、結実等の生育調査を行ってきている。その結果、無加温栽培でのアボカドの開花及び結実には、開花期の低温（10℃以下）等の影響により、品種間で着花や着果にバラツキが確認され、開花しても結実しない傾向も認められている。そのため、施設栽培での品種特性を解明し、着果安定対策の確立が急務である。

そこで、本試験では、無加温及び少加温栽培でのアボカドの生育の特性を品種ごとに調査するとともに、他の果樹栽培において、花芽形成や果実肥大促進、着色向上などを目的に行われる「環状剥皮」を開花期に実施することにより、アボカドの着果状況、果実品質、樹体等への影響等について検討する。

さらに、和歌山県や愛媛県などの国産アボカド及び市販されている輸入アボカドを取り寄せ、農大産アボカドと果実品質を比較し、食味に関するアンケート調査等により消費者に対する嗜好性を調査する。

2 実施状況（主要なものを選定して記載してください）

(1) 少加温栽培での品種特性調査

- ・ 29 年産での「フェルテ」、「ベーコン」、「ピンカートン」の着果状況は、3 品種とも全体的に着果数が少なく、年次間差が認められた。果実の縦径、横（長径）の肥大は、3 品種とも生理落果がほぼ終了する時期から9月まで緩やかに果実肥大が進んでいくことが判明した。
- ・ 試食によるアンケート調査結果から、「フェルテ」と「ベーコン」の収穫適期は 11 月中旬頃であり、「ピンカートン」は、11 月中旬に収穫した場合、果実の追熟日数にかなり期間を要したため、12 月以降に収穫した方が良いと考えられた。
- ・ 平成 30 年産の開花期は、「フェルテ」が2月上旬、「ピンカートン」、「ベーコン」、「川平グリーン」の順番で3月上旬に確認された。

(2) 環状剥皮処理による着果安定対策調査

- ・ 「ピンカートン」と「ベーコン」（ハウス、露地栽培）を対象に満開期から処理を実施中（平成30年3月26日から処理を開始）。

3 今後の課題、取り組み

(1) 少加温栽培での品種特性調査

各品種における開花・結果状況を調査中である。

(2) 環状剥皮処理による着果安定対策調査

処理後の結果状況、樹体への影響、果実品質等を調査予定。



農大産アボカド果実



アンケート調査風景



環状剥皮処理状況